

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑		
所在地	〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1丁目7番18号 Tel 093-533-0633		
自己評価作成日	令和06年02月15日	評価結果確定日	令和06年04月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和06年03月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「親ならば たいさつな人ならば 自分ならば」を職員一人一人が周知し、ケアや業務に携わっている。面会は、制限がなくいつでも家族様や馴染みの関係の方が来苑いただける体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おむすび苑」は、住み慣れた地域の中で、最期まで安心して暮らせる「終の棲家」として2014年4月に開設した、定員18名のグループホームである。新型コロナ5類移行に伴ない、「おむすびサロン」「おむすび公園」を地域に開放し、少しずつ地域との関係を再開し、おむすび公園の畑で芋掘りや餅つき等、少しでも利用者に楽しみを味わって過ごして頂く様に、管理者を中心に職員の努力が続いている。協力医療機関医師との密な連携に加え、同一建物内に訪問看護ステーションを開設して医療面での強化が図られ、看取りも行っている。事務職員、介護職員、看護師が、それぞれの持てる力を発揮しながら、利用者や家族の笑顔に繋がる事業所を目指し、利用者や家族と深い信頼関係を築いている、グループホーム「おむすび苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念はたくさんたくさんありますが、現在の共に働く職員の中での理念を掲げました。「親ならば たいさつな人ならば 自分ならば」と自身が問いながら、されてうれしいことを想像しケアや業務に繋げている	法人理念や基本方針、「おむすび苑8ヶ条」を各フロアに掲示し、毎週月曜日の朝礼時に唱和して、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解している。職員は、利用者の尊厳を大切に、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが五類に引き下がり地域との繋がりも徐々に緩和してきました。散歩やステーションゴミ出し、通勤時での地域の方々とのあいさつや情報交換ができ交流ができている	新型コロナ5類移行に伴ない、利用者と職員は町内会の一員として、地域の行事や活動に出来るだけ参加し、おむすび公園で同一法人保育園の子どもたちと焼き芋やバーベキューを楽しむ等、少しずつ交流を広げている。回覧板を回したり受け取ったり、毎週木曜日のゴミステーションの清掃に参加する等、今出来ることに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせの中で、病院や施設、ケアマネの方々から「おむすび苑は手厚く、困難事例や看取りをされていて入居希望の方がいるのでお願いしたい」と問い合わせが多く、地域に職員の実践や支援が活かされている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を再開し、おむすび苑でのサービス報告をし意見を伺い、サービスの反映している	運営推進会議は、併設小規模多機能ホームと合同で、2ヶ月毎に開催し、ホーム運営や取り組み、行事や研修計画、事故等について報告して、参加委員から意見や質問、情報提供を受けて話し合い、参加委員から出された意見や要望は検討し、介護サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護請求やケアマネ書類についてなど、困りごとを相談し協力関係を築いている	管理者は、行政窓口にも、空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例等の相談を行い、連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席しホームの現状を説明し、アドバイスや情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはを尊厳とはを意識し、正しく理解しケアを実践している。身体拘束はしていません、。	職員研修を開催し、虐待や身体拘束について職員への周知を図り、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。また、毎日の申し送り時に、日常介護の中で気になる点があれば、その都度、職員間でしっかりと話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは尊厳とはを意識し、正しく理解し研修も行っていきます。また、自宅での家族様の介護負担なども確認しながら注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所にあるパンフレットなどを個々で確認し最新情報を共有し支援している。	管理者は権利擁護に関する制度の研修を受講して理解し、パンフレットや資料を用意して、職員へ周知を図っている。必要時には、利用者や家族に、制度について説明し、申請窓口を紹介できる体制を整えている。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて説明をしています。不安や疑問点を聞きご理解やご納得いただいています。改定の際は、書類を作成説明と署名捺印をいただいています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来苑時、電話でのご意見や要望を聞き、職員で共有し反映させている。	ホームの日常会話から職員は、利用者の意見や要望を把握し、家族の面会時や電話、メール、手紙で家族と密にコミュニケーションを取りながら、家族の意見や要望を聴き取り、ホームの運営や日常介護に活かせるように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議での内容を施設長会議で報告し助言を受け現場に反映している。	全体会議やフロア毎の会議、介護職員のみ、看護職員のみ、ケアマネージャーと計画作成担当者の会議等、小さなミーティングが多くあり、職員が意見を表せる機会が多い。直接管理者への相談もあり、思いを聴く中で、職員からの発信を出来るだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長からの現場報告があり、人事考課表の提出をし会社理念に沿い、研修内容や資格への向上心があるか、勤務態度を報告し、環境や条件の整備に努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集や雇用に関しては、性別・年齢に区別なく募集や雇用を行っている。	職員の募集は、働く意欲や人柄を優先し、採用後は、職員間で常に互いを思い合うことの大切さを説明し、職員間で助け合いながら、それぞれの特技や能力を活かせる職場作りに取り組んでいる。また、年1回の昇給、マイナスのない賞与の査定、有休、夏冬のリフレッシュ休暇の取得も奨励している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の中に人権や啓発内容を含み実施し、職員に周知するよう取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員全体会議で話し合い、職員間の意識の統一を図っている。職員は法人理念、基本理念、おむすび苑の理念を常に意識して、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長からの現場報告があり、人事考課表の提出をし会社理念に沿い、研修内容や資格への向上心があるか、現場での手技やケアの向上があるか報告を受けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが五類に引き下がり、勉強会や親睦会の機会が増えてきている。今以上にサービスの質を向上している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人より聞き取りができるときは、思いを聞いています。聞き取りが難しい方の時は、家族様より伺い関係づくりに努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度もお話を重ね、大小かかわらず不安や要望を伺い、関係づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの情報を参考にし、おむすび苑での支援を見極め検討し対応してる		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を意識し、日々の関係性を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の気持ちもくみ、しっかりと話し合う時間を持ち、関係性を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	海外に滞在中の家族様が2名いる。帰省時には、毎日来苑されている。ご主人の食事介助を週に4日程度来苑され、ご夫婦の時間を巣がされる。	笑顔で挨拶を職員間で徹底し、新型コロナ5類移行に伴ない、面会に訪れやすい雰囲気作りを心掛け、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎している。馴染みの美容院へ出かけていたが、現在は、天気の良い日におむすび公園で青空美容室を実施している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアのテーブルやベッドを日々工夫し、密着度がある環境に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も、来苑されたり、会社用携帯に近況報告がある。また、転院したなども連絡がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	数字を好きなように何度も数えていただく、また職員も一緒に数えている。、歩きたいの気持ちに添い、一緒に歩き、絶対に静止しないよう支援している	ホームの中の日常会話から、職員は利用者の思いや意向を把握し、思いの実現に向けて支援している。自己選択、自己決定が困難な利用者には、職員が利用者に寄り添い、表情や仕草から思いを汲み取り、常に利用者主体である事を意識しながら、ホームの中で利用者が安心して暮らせるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の環境は、できるだけ馴染みの私物を持参していただいている。また、入居後も落ち着きある環境に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日での体調を把握し、入浴やレクリエーションなどを臨機応変に変更している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり情報収集し、多職種間で時間をかけ対話し、介護計画に反映している	ケアマネージャーや担当職員が、面会や電話で家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼、申し送りノート、ミーティングを活用し、ケアや介護計画の見直しをしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に対応し、柔軟な支援ができています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	赤坂地区での地域資源を把握し、支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	あきたけ医院との連携を密にし、希望に添えるよう助言していき、適切な医療支援をしている	入居時に利用者や家族の希望を尊重して主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診は家族対応でお願いしている。現在は利用者全員が、協力医療機関が主治医であり、定期的な往診と緊急時の指示を受け、看護師、介護職員が連携して、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が日々に健康管理を行い、おむすび苑内の看護師との情報共有や訪問看護との連携を密にし支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室と連携をとり、早期の退院に向け支援している		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医が、重度化や終末期の判断や診断をされた際には、家族様の今後の方向性について話し合いの場を設け、職員一体となって取り組んでいる	契約時に、利用者や家族に重度化や終末期に向けた方針について、説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と主治医、関係者で今後の方針を確認し、希望があり条件が整えば、看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを整備し職員に周知している。内部研修や個人個人の自学に取り組んでいます		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。地域とは町内会に加入しており協力体制ができています	非常災害を想定した避難訓練を年2回、併設事業所と合同で実施し、2階と3階の利用者18名を、安全に一時避難場所に誘導し、消防車の救出を待つ体制を整えている。また、防火意識を徹底し毎日担当者が安全点検を行っている。災害時に備えて非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人のひととしての尊厳ある声掛けを行い、また職員間で違和感ある言葉の時はその場で声かけし、尊厳を一緒に考えています	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員一人ひとりが人生の大先輩として尊敬の念を持って利用者に接し、プライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛け、新人研修でしっかりと意識づけを行っている。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務について管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや普段からの表情、しぐさから心情を読み取り、また、職員間でも情報を共有し、自己決定ができています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合ではなく、利用者さんの意志に添って職員同士で支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から愛用されている洋服をリメイクしその方らしい装いを支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間の声掛けやメニューを伝え、椅子に座っていただきながらもできる、テーブル拭きなどを準備支援している	法人厨房から栄養バランスやカロリー計算された料理を配食し、彩り良く盛り付けして炊飯や汁物の温めは各フロアで行なっている。食事の準備から片付けまで、利用者の残存機能に合わせて楽しみながら手伝っている。また、炊飯器を使って芋ケーキを作る等、おやつ作りにも挑戦し、利用者の食欲増進に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態を把握し形態に工夫している。水分量も職員間で把握し、必要な時は看護師より支持を受けている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できるところは自身でやっていただき、難しいところを職員がお手伝いしている。また、歯間ブラシや舌ブラシ等で工夫し、汚れや口臭予防に努めている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導やおむつ確認は、一人ひとりの時間間隔で対応している。また、利用さんの表情等を見極めトイレやおむつ交換のタイミングを把握している	職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間帯は2時間毎の巡視を行い、トイレ誘導、パット交換、オムツ交換等、それぞれに応じて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の朝のヨーグルトや水分量の把握、内服薬との関係性を把握し、できるだけ自然排便への取り組みをしている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の利用者様の体調や希望が一人ひとりに添った支援をしている	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して、週2回を基本としているが、便失禁があった場合等はその都度シャワー浴を行なっている。毎週木曜日の午後、介護士2名と訪問看護師1名で1階の特浴を使って、重度の利用者の入浴を行う体制が整っている。また、入浴は利用者職員が一对一でゆっくり会話が出来大切な時間と捉え、本音を聞き取っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「横になりたい」の気持ちに添い、時間に関係なく休息時間を設けている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と薬剤師が連携をとり、また疑問や心配な点は主治医に上申している。また、情報は職員に伝達し家族様にも報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様からの差し入れは召し上がっていただき、また希望がある時は家族様に伝えている。オセロが得意な利用者さんと職員が対応し時々苦戦している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	皮膚科への受診や、苑内にあるおむすび公園に出かけている。	新型コロナ5類移行に伴ない、天候や利用者の体調を見ながら、花見や買い物、ドライブ等に出かけ、利用者の気分転換に取り組んでいる。おむすびの形をした敷地の中のおむすび公園を整備し、花や芋を植え、ベンチを置いて、外気浴を楽しむことが出来る環境を整え、利用者の生きる力を引き出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しく、支援はできていない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会社のテレビ電話で、家族様とお話できる時間を設けている。また、馴染みの方からの年賀状が毎年届いている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快のない空間を心がけている。職員が利用者様と一緒に季節の飾りを作成しフロア内飾って楽しまれている	地域交流室「おむすびルーム」を設置し、おむすび公園を整備して、地域の方や保育園児、利用者の交流の場になっている。三角形の敷地を上手に活かした建物は、清潔で清掃が行き届き、温度や湿度、照明や音、臭い等にも配慮して、明るくてアットホームな雰囲気の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の波長を加味し、孤独を感じない、いこちの良い空間を工夫している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、写真、ぬいぐるみ、布団など使い慣れたものを配置し工夫をしている	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの仏壇やソファ、家族の写真等、思い出のある物を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように家族と相談しながら居室を整えている。また、利用者の状態変化に合わせて、床ベッドに替えたり、箆箆を外したりして、利用者が安全に過ごせる環境作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんを知る中で、情報共有をしそれをケアプランに反映しながら、安全な自立支援を工夫している		